

# 住吉丸進水式

【きらら浜へと姿を変えた遠石島】

【昭和13年7月26日撮影】

## 想い出写真館

最終回

久しぶりに古いアルバムを開いてみませんか？

懐かしい家での家族の団らん、学校で学んだ日々

願うだけでトンボを追いかけた夕暮れなど

思い出がぎゅしりとつまんだアルバムを。

一枚の写真が語る当時の生活。

ほら、その時のまじの音や会話が聞こえてくるでしょ。



着物にほおかむりをしたご婦人たちが大勢お祝い行事にかけつけています



【語り人】

中村健造さん( 縄田北区 )

夏休み帳をもって住吉丸で過ごした夏休み。瀬戸内の港から港へ寄港し、本当にのんびりした旅でした。

ここは、かつて阿知須の沖にあった遠石島。三本マストの帆船を遠石島造船所で改造した大型の機帆船「住吉丸」の進水式が行われています。船には大漁旗が掲げられ、多くの人がお祝いにかけつけています。

江戸時代初期から回船業の港町として栄えた阿知須。大型の帆船に米を積み全国を回漕わいかうしていました。明治中期に入ると汽船の登場により帆船輸送は衰退。かわって登場したのが需要が増した石炭の輸送です。

「宇部の炭坑で採れた石炭を船に積み、京阪神まで輸送していました。私も小学校の夏休みに船に乗せてもらいのんびりと旅したのを覚えていますが」と語るのは、お父さんが住吉丸の船主で船長だった中村さんです。当時、京阪神までの道のりは帆船で半月。帆船にエンジンを付け、機帆船に改造すると一・二日で到着するようになったそうです。



干拓事業で消えた遠石島

# みんな元気

最終回

# これって なんなほりゃ〜



年長としてたくましく成長中  
阿知須幼稚園まつ組

おしゃべり大好きな、元気いっぱいの「まつ組(年長)」42人です。4月に「一番大きなお兄さん・お姉さん」になり、子どもたちはハラハラドキドキ。しかし、今のみんなの顔は、キラキラワクワク。年少、年中、年長の縦割り保育の時は、年下の子のお世話をやさしくしてくれたり、トイレのスリッパや本棚の絵本を進んできれいにしたりと少しずつ成長しています。

7月のお泊まり会では、家族と離れて寝ることにちょっぴり不安…。でも、翌朝泊まることができた子どもたちの顔は、誇らしげに輝いていました。

今は、秋の運動会に向けて、汗を流して練習を頑張っています。これからも、阿知須の環境に生まれ、たくましい子に成長してくれるよう願っています。

阿知須幼稚園では子育て相談を実施しています

内容 育児相談、発達相談など(要予約: ☎65-3880)

対象 未就園児をもつ保護者など

その他 日程など詳細については直接お問い合わせください。



阿知須のみなさんの夢を乗せ出発進行!

日本人宇宙飛行士5人目となる野口聡一さんが15日間の宇宙飛行を終え8月9日、無事地球へ帰還しました。米国人宇宙飛行士による史上初の船外機体修復作業に成功。そして野口さん自身も計20時間にも及ぶ船外活動を無事にこなすとともに、長年憧れ、挑戦し続けてきた宇宙への夢を見事実現させました。

遙か彼方に広がる未知なる宇宙空間ですが、ここ阿知須町にも宇宙をイメージさせる施設があります。そう、阿知須小学校です。

道路に面した屋内運動場の壁一面には、子どもたちが感じる大宇宙の創造的イメージ空間が描かれ、校舎の上層部には、惑星を思わせるモニュメントやカラフルなロケットがデザインされた照明設備が設置されています。児童たちも「ぶち、かっこえー」とこのデザインがお気に入り。果てしなくひろがる大宇宙から地球をとらえる視点に立ち、子どもたちがたくましく、そして未来へ大きく羽ばたいてほしいとの願いを込められたこの学舎で6年間を過ごします。

いよいよ10月1日、阿知須町は大きな志のもと、新「山口市」として歩み始めます。

町では、阿知須町最後の日を惜しむとともに、新市のスタートを祝うため、9月30日の夜から10月1日の朝にかけてロケット型の時計台先端部分をライトアップします。

7色に光るロケットは、未来へ向かって前へ前へ進みます。子どもたちと阿知須のみなさんの大きな夢を乗せて…。